

熊本市生物多様性プラットフォーム（仮称）について

【目的】

平成 28 年 3 月、「熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもと C プラン～」(以下、「C プラン」という。)を策定し、生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた取組の枠組みが整ったが、市全体としての生物多様性の認知度や理解度は高いとはいえない状態にある。

他方、C プラン策定以前から、生物多様性に関して取り組んでいる市民活動団体等が複数存在する。しかし、各団体においても次世代の人材育成が十分でないことや情報発信の機会が不足していること等の課題を抱えている。

そこで、C プランにおいて 5 つの基本戦略の 1 つとして掲げる、「学び、つながる（生物多様性の認識の向上、人材の育成、連携・協働体制の構築）」の具体的な取組として、市民活動団体、事業者、行政等各主体が連携・協働できる仕組みづくりを検討している。

このため、熊本市生物多様性プラットフォーム（仮称）は、熊本市が各主体の活動内容を集約して情報発信するとともに、各主体同士が交流・情報交換できるような場を提供することにより、各主体間の連携・協働を構築し、各主体の取り組みの更なる発展に繋げ、市全体での活動を促進することを目的とする。

【プラットフォームの仕組み】

市民活動団体、事業者、行政等が「熊本市生物多様性プラットフォーム（仮称）登録要綱」に基づき、市長に登録手続きを行った上で、「熊本市生物多様性プラットフォーム（仮称）」のメンバーとして登録される。

* 登録要件 *

C プランが掲げる基本戦略 1～5 のいずれかに関わる活動をしていること。

例：基本戦略 1・・・野生動植物の調査など

基本戦略 2・・・自然観察会の開催など

基本戦略 3・・・絶滅危惧種の保全、外来種対策の取組など

基本戦略 4・・・緑化や生物多様性に配慮した環境作りなど（主は事業所）

基本戦略 5・・・エコツーリズム、地元農水産ブランドの推奨など

→ 参照：資料 2-2 イメージ図 及び 資料 2-4 登録要綱

【プラットフォームの取組】

1. 情報の発信

(1) 熊本市のホームページにて登録者の概要等の情報を掲載

(2) 各登録者の活動・イベントを熊本市ホームページ、facebook 等に掲載

(○月の活動・イベント紹介 という形で前月末に発信)

(3) 各登録者の活動内容を冊子として集約

→ 関連イベントの会場や市の施設に設置・配布（ホームページでも冊子データの公開）

2. 情報共有・交流促進

- (1) 生物多様性の日イベントにて、各登録者の活動内容をパネル展示
- (2) 各登録者を対象とした現地交流会、意見交換会の実施
- (3) (仮称) くまもとC生物多様性ミニシンポジウムの実施
(ポスターセッション+グループワーク) など

【期待される効果】

1. 市が各登録者の情報を取りまとめ、発信することで、生きもの、自然に興味がある市民が市内で行われている活動を把握しやすくなる。
2. 市が情報発信することで、活動の信頼性を後押しする(同じ活動でも団体が参加を呼びかける場合と行政が間に入って参加を呼びかける場合では、後者の方が参加者数が多い傾向)。
3. 登録者の活動実施のモチベーションが向上する(登録者の取り組みが市の事業・取り組みに役立っており、またその取り組みが公表される)。
4. 高校生物部などの若手参加による次世代の人材育成・発掘につながる。
5. 各登録者が連携することで、活動の更なる発展を促進する

【年間スケジュール】

- ・春：5月22日(国際生物多様性の日)前後 生物多様性の日イベント(体験型イベント中心)
案) 登録者に活動パネルを作成してもらい出展
- ・秋：現地交流会
案) 登録者の活動フィールドでの活動を体験する交流会・意見交換会の開催(講師は事務局選定)
- ・冬：情報共有・交流促進
案) ポスターセッション+グループワークの実施

※夏は、プラットフォームとしてのイベントは開催せず、夏休み時期に開催される各登録者のイベントをまとめてホームページ等で紹介することで、子どもたちが生きものや自然に触れる機会を提供する。(ex. 各主体が実施する関連のあるイベントを選択することが可能となり、地域ごとの比較ができたりなど、学習内容を深めることにつながる)